

# 広島経済レポート

## 命守る「IPH工法」を全国へ 創立30周年迎え注目高まる

SGエンジニアリング

加川 順一 社長



鉄筋コンクリート構造物を補修・補強する「IPH工法」(内圧充填<sup>じゅうけん</sup>接合補

強)の開発・普及に力を注いできた。初速で空気を抜き、接合樹脂を構造物の微細な亀裂に安定的に充填する補修技術工法で、特許を取得。構造物の健全・延命化を図る。創立30周年を迎え、地震発生後に問い合わせが増えており、「建物や橋、トンネルなど人の手による建造物で命が絶たれることがあってはならない。人の命を未然に守るIPH工法の普及、浸透を地域の

協力会社と共に加速させる」

工法を確立して20年以上になり、有効性が確認された。広島大、広島工業大、岐阜大、名古屋大、京都大、東京工業大などと共同研究や実証試験を推進。国土交通省のNETISや土木学会の技術評価認定を受け、橋脚や新幹線高架橋、マンション、神社仏閣など施工実績も多様化。歴史的構築物も増えているという。

「高度成長期に打設されたコンクリート構造物の劣化対策に使命感を持って事業を推進していく」

施工技術者認定制度などを整え、2014年には(社)IPH工法協会を設立。施工協力会社は現在、北海道・沖縄に130社。使命感の高い200社体制で施工網の構築を目指す。「海外からもオファーがある。国際特許も取得を拡大しているが、まずは国内で確実に施工できる技術者を育成し、人の命と生活を守る工法として信頼と実績を高めたい」

NEWS  
な  
ら  
び

## SGエンジンのIPH工法

国交省建設技術展示館へ常設

SGエンジニアリング(西区草津東、加川順一社長)は、コンクリート構造物を補修・補強する「IPH工法」(内圧充填接合補強)が、5月17日にリニューアルオープンする国土交通省関東地方整備局の建設技術展示館(千葉県松戸市)に常設展示される。

展示テーマは、人手不足が深刻な建設業界の「担い手確保」と「生産性向上に関する技術」。同社は後者の48出展者の1者で広島県からは唯一。同工法は、スプリング加圧式で空気を抜きながら特殊樹脂をコンクリート構造内の微細な亀裂に充填させる補修技術で、躯体の強度を増し、既存構造物の健全化と長寿命化を図る。工法特許を取得。高度成長期に打設された同構造物の劣化が進む一方、近年は地震の発生した自治体から問い合わせが相次ぐ。東京都や広島県の推奨技術に登録されたほか、熊本で施工実績が増加。2014年に(社)IPH工法協会(理事長同)を設立し、施工協力会社として認定する協会員は全国130社。

平成30年5月17日掲載

平成30年4月26日掲載